

（2005年5月26日評議員会同意・同日定例理事会承認）

2004（平成16）年度事業報告書

年度の基本方針に沿って、以下の事業に取り組んだ。

平成16年度事業・予算の方針（骨子）

- (1)「NACS-J事業の今後10年間の方向性」（平成13年度専門委員会提言）に沿って事業を計画・遂行する。
- (2)総合プロジェクトは、各種プログラムの企画・運営・実施や関係セクターとの新たなパートナーシップスタイルの構築等に向けて力を注ぐ。
- (3)継続的に取り組んでいる各プロジェクトは、事業成果のさらなる向上をめざすとともに、会員をはじめ広く一般からの支持・支援が得られる事業展開に努める。
- (4)個人会員に重点をおく会員拡大への取り組みを継続し、広範な支援者層の獲得と財政基盤の拡大・安定化をめざす。
- (5)収支均衡予算を基本とし、会費・寄付の手堅い収入目標設定、事業テーマに沿った受託・助成事業の推進、日常業務の効率化によるコスト節減、積立預金の計画的活用等に留意する。

平成16年度事業の構成

- 1.総合プロジェクト
 - (1)AKAYAプロジェクト
 - (2)尾瀬プロジェクト
- 2.保護研究事業
 - (1)保護系プログラム
 - (2)研究系プログラム
- 3.普及広報事業
 - (1)広報系プログラム
 - (2)環境教育系プログラム
 - (3)会員拡大系プログラム

4.会員管理・サービス事業

5.その他事業

1.総合プロジェクト

(1) AKAYAプロジェクト

林野庁関東森林管理局と締結した「『三国山地ノ赤谷川・生物多様性復元計画』の推進のための協定書」に沿って、各プログラムを実施した。

1) 自然研究系プログラム

緑の回廊三国線・モニタリング事業（林野庁関東森林管理局受託）

検討委員会を設置し、植生系・動物系・環境系と地理情報システムへの蓄積の4つのカテゴリーからなる「自然環境モニタリング基本方針（第1次）」を作成した。

自然再生推進モデル事業（林野庁関東森林管理局受託）

上記の方針に沿って、地理情報システム整備、モニタリングサイト設定調査、猛禽類全域分布および繁殖モニタリング調査、中小型哺乳類モニタリング予備調査を行った。

2) 保護系プログラム

関東森林管理局が主体となって進めるプロジェクト共通事業、および利根沼田森林管理署による生物多様性復元事業の企画・実行に参画した。

3) 環境教育系プログラム

「NACS-J自然観察指導員講習会・AKAYA版」の開催（別表7）

「AKAYAリアルネイチャー・キャンプ」の開催（別表9）

「赤谷の日」として、月例の環境管理・調査研究実習を開催した。

4) 情報発信系プログラム

ロゴマーク、パンフレット、エリアマップおよびホームページの制作

プロジェクトのロゴマークと紹介パンフレットを作成するとともに、NACS-Jホームページ内にプロジェクト特設ページを新設した。

エリアマップの制作に向けて、地域関係者との現地視察やエリアの空撮を行った。

メディア等でのPR

読売新聞・土曜日夕刊連載コラム『赤谷の森から』（9月～3月、28本）の企画・進行監修・原稿執筆のほか、取材・講演・現地案内等の各種依頼に対応し

た。

5)社会研究系プログラム

地域住民に対するインフォメーション

隣接行政区や村内全域に向けた地域説明会の順次開催、村内広報誌への記事掲載、ニュースレター「かわら版」の作成・全戸配布等に協力した。

施策立案研修等の実施

国有林野モデルプロジェクト担当職員を対象に、プロジェクトの意図と展開方法に関する現地研修を実施した。

6)基盤整備系プログラム

合意形成システムの構築

プロジェクト総合事務局として、「企画運営会議」「調整会議」の2種の定例会議を設置し、共同管理3者はじめ関係団体との合意形成・意思決定のしくみを構築した。

参加・協力者の拡大

当協会会員や地域在住者を中心に、各取り組みに参加・協力するボランティアを募り、約50名の「AKAYAサポーターチーム」を構成した。

活動拠点の整備

約7haの旧営林署施設を修復し、プロジェクトの活動拠点「AKAYA・いきもの村」として整備した。

(2) 尾瀬プロジェクト

1) 自然研究系プログラム

至仏山環境共生推進計画調査(群馬県受託、継続)/生態学的現況・登山利用状況に関する調査・解析、調査基盤システムの構築、各調査結果の統合と作業委員会の運営を行い、至仏山の保全・利用策への具体的な提言をまとめた。

2) 保護系プログラム

公園計画における利用調整地区指定に向けて、利用制度・保全計画に対する提案づくりを進めた。

尾瀬地域におけるツキノワグマへの対処について、国・地域等関係者に課題設定、問題点整理、具体策・責任体制の検討等の根本的な見直しを提案した。

2. 保護研究事業

(1) 保護系プログラム

1) 干潟・藻場生態系保全

沖縄島北部東海岸（辺野古・嘉陽）海草藻場（自然保護助成基金助成、継続）
気球による海草藻場の空撮調査、市民参加調査「沖縄ジャングサウォッチ」（のべ約40名参加）および地域観察会（約50名参加）を実施し、モニタリング調査のネットワークを形成するとともに、米軍普天間飛行場移設計画の見直しと海草藻場の保全を繰り返し求めた。

沖縄島泡瀬干潟（自然保護助成基金・WWF日興グリーンパートナーズ基金助成、継続）

専門家・地域グループとともに現況把握調査を実施し、中間報告をとりまとめて沖縄で発表した。また、進行中の埋立事業や事業者による環境保全措置を検証し、調査結果にもとづき、事業の見直しと干潟の保全を求める働きかけを行った。

2) 特定地域

川辺川

地域グループによる九折瀬洞窟コウモリ調査およびクマタカ繁殖状況調査に協力するとともに、川辺川ダム事業の進行等の状況モニターを続けた。

小笠原諸島

自然再生・外来種対策等各環境施策の進行状況のモニターを続け、総合的な環境管理のあり方を提案した。

3) 野生生物保護

「野生生物保護基本法制定をめざす全国ネットワーク」の加盟団体として、法制局・関係議員等へ基本法制定の働きかけを続けた。また、クマの出没・駆除の急増に対し、緊急シンポジウム「いま、クマとの共存を考える」（11/21、東京大学弥生講堂、約200名参加）を開催し、環境省自然環境局野生生物課にツキノワグマの保護管理対策を求めた。

特定外来生物法における「基本方針」の策定や「特定外来生物」の指定等のほか、各種関係法制度の運用・改正等に関して関係者協議や意見提出を行った。

4) その他国内保護

現地視察、意見提出、委員会参画、取材対応、外部催事協力等により、各地の活動への支援・協力や施策の転換に対する働きかけを行った（別表1、2、3、4）。

行政研修・大学講義等への役職員の派遣（環境省、林野庁、国土交通省、水資源機構、国立科学博物館自然教育園、東京情報大学、麻布大学ほか）、修学旅行等による中高生の訪問学習を受け入れ等、各方面に自然保護の現状の解説を行った。

3種の「NACS-J自然保護寄付パンフレット」を作成・配布し、資金支援を呼びかけた。

5) 国際対応

IUCN日本委員会の運営

IUCN（国際自然保護連合）の国内会員18団体からなるIUCN日本委員会の事

務局として、会議・ホームページ等の運営を行った。

国際生物多様性情報収集（環境省請負、継続）

「アジア地域会合」（7/3-4）および「IUCN第3回世界自然保護会議」（11/15-25）への出席等を通じ、生物多様性保全に関する国際動向について情報の収集を行った。

(2) 研究系プログラム

1) 植物群落RDBモニタリング

植物群落RDBの普及

『「植物群落レッドデータブック」の活用：自然保護に活かす植物群落モニタリング（仮題）』の発行に向けて準備を進めた（平成17年6月発行予定）。

市民参加の海岸植物群落調査（日本財団助成、継続）

海岸植物群落調査研修会を9ヶ所で開催し（別表5）211人が受講、約300ヶ所の海岸の調査を行った。それらの成果をGISデータにまとめホームページで公表するとともに、モニタリングシステムの構築を検討した。

照葉樹林RDB調査（自然保護助成基金助成）

宮崎県宮崎平野周辺を調査地として選定し、照葉樹林群落の保護管理状況に関する再調査を開始した。

2) 里やま保全研究

生態系総合モニタリング調査（地球環境基金助成）

茨城県穴塚大池・千葉県大草での調査の試行等をもとに、里やまにおける市民参加モニタリング調査の手法の改良・研究を続けた。

「自然とのふれあい」に関する研究（ニッセイ財団助成、継続）

里やまにおけるふれあい活動調査結果や市民によるふれあい調査事例の分析や事例地視察等をもとに、ふれあい調査の意義を明らかにし、調査手法の検討を進めた。

里やま生態系保全の普及

『生態学からみた里やまの自然と保護』を出版した（石井実監修、講談社刊、2,500部）。

3) 原生自然保全研究

屋久島において、原生自然環境保全地域のモニタリング予備調査を実施した。

4) 研究・活動支援

プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（自然保護助成基金との共同）/ 助成対象に2年計画事業を加えて平成16年度（第15期）助成の募集・審査を行い、23件の研究・活動グループに計2,400万円の資金支援を行った（別表6）。

平成14年度（第13期）助成の成果報告書を作成するとともに、平成15年度（第14期）助成の成果報告会（12/11、於：東京四谷・主婦会館、約110名参加）を開催し

た。

シンポジウム「ひとと野生生物との関係を考える～いきものと共存できる社会を目指して」（6/13、於：大阪市立自然史博物館、約100名参加）を開催し、これまでの主な助成成果を紹介した。

5)受託研究

小笠原村南島自然環境モニタリング（東京都受託、継続）

植生・動物等生息状況・土壌浸食状況・観光利用状況等について現地調査を行い、国内外来種の分布や観光利用との関係等を解析した。

小笠原国有林南島モニタリング（林野庁受託、継続）

植生回復事業箇所や自然観察路の微地形・植生変化について、モニタリング調査を実施した。

モニタリングサイト1000里地調査（環境省生物多様性センター請負）

里地におけるモニタリング調査の枠組みづくりに向けて、文献調査・調査候補地の現地確認等をもとに調査内容・調査手法・調査地選定等の検討を進めた。

6)情報整理（J.INOUYE基金を活用）

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムを整備した。

3.普及広報事業

(1) 広報系プログラム

1) 会報『自然保護』の発行

年6回（第479号～第484号）、各約18,000部を編集・製作した。編集の方向性や毎号の企画・構成を定期的に検討するとともに、読者からの感想・寄稿等の増加を工夫した。

[各号の特集]

「自然保護イベントの企画力を磨く」（第479号、5/6月号）

「海辺の自然で見えてきたこと」（第480号、7/8月号）

「渡り鳥が教えてくれる『地域自然』の価値」（第481号、9/10月号）

「自然に親しむための『利用ルール』をつくる」（第482号、11/12月号）

「自然派としてのセンスを磨こう」（第483号、1/2月号）

「自然を記録するスキルアップ術」（第484号、3/4月号）

2)NACS-Jホームページの運営

知名度向上と支援者拡大の基盤として、週2回ペースで情報を更新した(トップページアクセス236,397件/日平均約650件、ユニークアクセス155,237件/日平均約430件)。

3)携帯電話用ホームページの新設・運営

12月より携帯電話専用のホームページを新設し、携帯メールからの資料請求の受付を開始した。

(2)環境教育系プログラム

1)NACS-J自然観察指導員の養成

NACS-J自然観察指導員講習会

17回開催し、今年度の登録者数は988名、初回からの総登録者数は21,007名となった(別表7)。

「講師会議」の開催(3/5-6、於:NACS-J事務局)等を通じて講習会講師のスキルアップとレベル統一を図るとともに、OJTやミーティングによる講師候補者研修を行い、新たな講師の発掘に努めた。

DM発送等を通じて指導員の登録継続を呼びかける一方、個人情報保護法への対応に向けて登録データの保護と管理体制の強化を図った。

自然観察指導員フォローアップ研修会

2種の研修会を開催し、計75名が参加した(別表8)。また、テキスト『自然観察会におけるリスクマネジメント』を作成し、研修会に活用した。

連絡会等指導員活動への支援

指導員連絡会による地区交流会・総会等への出席のほか、原稿執筆・観察会リーダー・総合学習講義等への人材紹介の仲介を行った。

指導員登録者20,000人突破を記念して「全国一斉20,000人かんさつ会」(6/1-30)を企画し呼びかけ、全国約160件から協賛の申し込みが寄せられた。

2)環境教育一般

環境教育事業の方向性に関する検討

関係役員等との定期検討や学会への参加等を通じて、事業の方向性の検討を進める一方、環境教育推進法の運用に対して意見を提出した。

フィールドガイドシリーズの発行

『海辺ウォッチング(仮題)』の出版と『野外における危険な生物』の改訂に向けて、準備を進めた。

「自然しらべ2004~カタツムリをさがそう!」の実施

カタツムリをテーマに地域での自然観察の機会を提供し、学生インターンの協力やホームページの活用により、より一層の展開を図った。(通算9回目、協賛:株サニクリーン、協力:千葉県立中央博物館・株ネイチャースケープ、期間:7/1~8/31、参加人数:のべ1,599名、観察数:1,257地点・のべ4,973匹)。

外部事業への参加・協力

「環境教育・関東ミーティング」（2/11-13、於：国立赤城青年の家）に実行委員およびパネラーとして参加したほか、各種外部催事へ後援等の協力を行った（別表4）。

(3) 個人会員拡大系プログラム（牧田基金を活用）

1)参加プログラムの企画・実施による入会勧誘、および企業との協力関係の開拓・拡大

「リアルネイチャーシリーズ」として、企業人と学生を対象としたセミナーやAKAYAプロジェクトエリアでのキャンプを企画・実施し、のべ450名の参加者と、うち303名の入会を得た（別表9）。

企業人向けのセミナーは、企業との協賛・寄付関係を開拓・拡大する場として、キャンプは、会員を含む支援者に自然保護活動の成果の現場を見てもらう機会として活用した。

知床での自然観察ツアーの試行（共催：読売新聞北海道支社、7/24～8/4）等を通じて、入会を呼びかけた。

2)紙媒体を活用した入会勧誘

「入会案内パンフレット」を作成し、DM発送、店舗・公共施設等約700ヶ所への設置協力依頼、会員への配布協力・知人紹介依頼、希望者への無料送付、外部催事への参加等により全国に広く配布し、計486名の入会を得た。

3)支援基盤の強化

電子メール「自然保護ニュース」の無料配信（月に約2回、登録者約10,000名）、外部事業への参加・協力や取材対応等により、知名度の向上に努めた。

損保ジャパンによる学生インターンの受け入れや専門学校でのレクチャー等を通じて、ユース会員の獲得基盤を広げた。

会員拡大プログラムに労力を提供して下さるアクションサポーターを募り、サポーター活動のコーディネートを行った。

4.会員管理・サービス事業

1)会員管理

会員数の維持・拡大

個人会員に関して、会費自動引落のPRや依頼状の工夫等により登録継続率の維持に努めた。賛助会員および団体会員に関して、資料や依頼状の送付等により登録継続と新規入会を呼びかけた。

会員データの管理（運営基盤整備積立預金を活用）

データの増加や個人情報保護に対応するため、コンピュータシステムおよびデータ管理体制を再構築した。

一般寄付の維持・拡大

商品・作品の販売や催事での募金等による寄付企画の受け入れや会報での呼びかけ等により、寄付支援を募った。遺贈寄付の相談受付に関する協定を三菱信託銀行と締結した。

2)会員サービス

主催催事での直接販売や狼森（おいのもり）による通信販売を通じてオリジナルの報告書・資料集を頒布、通信販売では会報『自然保護』バックナンバーの取り扱いを開始した。

自然に関係する書籍の購入紹介等、賛助会員企業による会員宛DMの発送を受け付けた。

5.その他事業

1)顕彰

日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、第4回授賞者を「自然の権利」基金事務局長・籠橋隆明氏（日本における「自然の権利」確立にむけた先駆的業績）に決定し、授賞式および記念講演会を開催した（12/23、於：東京大学山上会館、約80名参加）。

2)基盤整備

資産運用の改善

昨年度末に定めた資産運用方針に沿って、基本財産およびその他固定資産の運用を一部変更し、利息収入の増加を図った。

労務・人事システムの改善の検討

労務関係規程の不具合の修正や各種制度改正への対応等に向けて、労務・人事システム改善の検討を続けた。

オフィス環境の改善の検討

職員の増加に伴う事務所スペースの拡大と固定的支出の削減のために、オフィス移転の検討を進めた。

以上

<別表1.> 意見書・要請書・パブリックコメントへの意見の提出等

（協会名または代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

那覇防衛施設局による名護市辺野古海域の地質調査・海象調査着工に対する抗議声明（4/19、那覇防衛施設局長）

諫早湾の中・長期開門調査見送り方針の撤回を求める緊急要請（4/28、農林水

産大臣、諫早干潟緊急救済東京事務所・諫早干潟緊急救済本部・有明海漁民・市民ネットワーク・日本湿地ネットワーク・WWFジャパン・日本野鳥の会との共同）

新石垣空港整備事業に係る環境影響評価準備書への環境保全の見地からの意見書（5/7、沖縄県知事）

普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価方法書への環境保全の見地からの意見書（6/10、那覇防衛施設局長）

特定外来生物被害防止法基本方針(案)に係る意見（8/7、環境省自然環境局野生生物課）

「新・生物多様性国家戦略の実施状況の点検結果(第2回)(案)に対する意見（8/17、環境省自然環境局自然環境計画課・生物多様性国家戦略関係省庁連絡会議）

那覇防衛施設局による名護市辺野古海域の地質調査再着工に対する抗議声明（9/6、那覇防衛施設局長）

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律による特定外来生物の選定に関する要望書（10/27、環境大臣、WWFジャパン・日本野鳥の会との共同）

中城湾港泡瀬地区埋立事業の工事再開と環境監視委員会、環境保全創造委員会の運営に関する意見（11/2、沖縄および北方対策担当大臣・内閣府沖縄総合事務局開発建設部長・沖縄県土木建築部長・内閣府沖縄振興局長、WWFジャパン・日本野鳥の会との共同）

那覇防衛施設局による名護市辺野古海域の地質調査のための海底削孔作業着手に対する抗議声明（11/16、那覇防衛施設局長）

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」による特定外来生物（植物）の選定に関する要望書（12/21、環境省自然環境局野生生物課）

第3回IUCN世界自然保護会議における勧告「日本のジュゴン・ノグチゲラ・ヤンバルクイナの保全」の履行を求める要請書（3/16、防衛庁長官・防衛施設庁長官・環境大臣・外務大臣、WWFジャパン・日本野鳥の会・ジュゴン保護キャンペーンセンターとの共同

／計12件

<別表2.> 声明・コメント等の提出

（担当責任者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

沖縄のジュゴン生息地の保全および普天間飛行場代替施設建設計画の見直しを求める声明（4/26、WWFジャパン・ジュゴン保護キャンペーンセンターとの共同）

諫早湾の中・長期開門調査見送り方針の撤回を求める緊急要請（4/28、農林水産大臣、諫早干潟緊急救済東京事務所・諫早干潟緊急救済本部・有明海漁民・市民ネットワーク・日本湿地ネットワーク・WWFジャパン・日本野鳥の会との共同）

「環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本方針(案)」の作成に係る意見（5/28、環境省環境政策局環境教育推進室）

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部改正する政令(案)」に係る意見(6/22、環境省自然環境局野生生物課)

「小笠原エコツーリズム推進マスタープラン(案)」に係る意見(6/25、小笠原エコツーリズム推進委員会)

声明「鎌倉市のアライグマ生息状況調査は、外来種問題において意義あるもの」(8/12、WWFジャパンと共同)

「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する基本方針概要(案)」に係る意見(8/24、環境省環境政策局環境教育推進室)

「人材認定等事業の登録に係る省令(案)」に係る意見(9/6、環境省環境政策局環境教育推進室)

「小笠原諸島振興開発計画(素案)」に係る意見(9/30、東京都総務局)

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」における特定外来生物に指定すべき提案リスト(10/25、WWFジャパン・日本野鳥の会との共同)

中城湾港(泡瀬地区)埋立事業海上工事再開および環境監視委員会、環境保全・創造委員会の運営に関する意見(11/2、沖縄および北方対策担当大臣・内閣府沖縄総合事務局開発建設部長・沖縄県土木建築部長・内閣府沖縄振興局長、環境監視委員会および環境保全・創造委員会委員有志との共同)

緊急声明「オオクチバスは特定外来生物に指定すべきである」(1/21、WWFジャパン・日本野鳥の会との共同)

特定外来生物等の選定に係る意見(3/2、環境省自然環境局野生生物課)

海上地区会場計画モニタリング委員会の平成16年度不開催に関するコメント(3/7、WWFジャパン・日本野鳥の会との共同)

/計14件

<別表3.> 委員の派遣出

(カッコ内は要請主体)

国立公園指定動物保護対策検討会(環境省、継続)

モニタリングサイト1000ワーキンググループ(環境省生物多様性センター、継続)

国有林「緑の回廊」モニタリング手法検討委員会(林野庁、継続)

国有林の「レクリエーションの森」に関する検討委員会(林野庁)

日本の森を育てる木づかい円卓会議(林野庁)

希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会(林野庁関東森林管理局、継続)

会津地域の原生的ブナ林の取扱いに関わる検討委員会(林野庁関東森林管理局、継続)

クマタカ保護と林業の調整に関わる検討委員会(林野庁関東森林管理局、継続)

沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会(林野庁九州森林管理局、継続)

小笠原国立公園植生回復調査検討会(東京都、継続)

小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会(東京都)

外来種捕獲手法マニュアル検討会(愛知県)
 奄美群島重要生態系地域調査学術検討会(鹿児島県、継続)
 中城港湾泡瀬地区環境監視委員会(内閣府沖縄総合事務局、継続)
 国立公園尾瀬地区・至仏山緊急保全対策会議(尾瀬保護財団、継続)
 海上地区会場計画モニタリング委員会(2005年日本国際博覧会協会、継続)
 鳥類標識調査検討会(山階鳥類研究所、継続)
 ハヶ岳植生保全管理方針検討会(ハヶ岳高原ロッジ、継続)

/計18件

<別表4.> 催事等への後援・協力・職員派遣等

(カッコ内は主催者・開催日)

ヒメボタルサミットin愛知(同実行委員会、5/18 - 6/20)
 第21回“自然は友だち わたしの自然観察路コンクール”(国立公園協会、6/1 - 11/30)
 彩の国環境地図作品展(同実行委員会、6/1 - 12/31)
 第15回トンボ市民サミット(同実行委員会、6/12 - 13)
 第12回大学生のための野生動物講座 地域の自然を守る(日本大学生物資源科学部野生動物学研究室、6/24)
 中・四国環境教育ミーティング2004(中・四国環境教育ネットワーク、6/25 - 27)
 辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を許さない6/26集会(同実行委員会、6/26)
 講演会「日本とマレーシアの森を結ぶヤイロチョウ」(高知県生態系保護協会、7/7 - 10)
 第45回夏休み子供自然観察教室(利根沼田自然を愛する会・沼田市教育委員会、7/25)
 第7回(2005年)「日本水大賞」(日本河川協会)
 第5回ライチョウ会議(同実行委員会、8/22 - 23)
 みんなで調べよう守ろう名古屋の自然「アサギマダラのマーキング調査」(愛知県自然観察指導員連絡協議会、9/11 - 10/23)
 シンポジウム「どうする、東京セントラルパークの景観・緑と自然」(東京セントラルパーク、9/16)
 宮川流域エコミュージアム全国大会(宮川流域ルネッサンスプロジェクト、9/17 - 19)
 第29回全国高校生デザインコンクール(東京YMCAデザイン研究所、9/30)
 第12回全国雑木林会議・多摩大会(同実行委員会、10/1 - 3)
 辺野古クリーンアップ作戦(じゅごんの里、10/3)
 持続可能な社会をつくる市民研究交流集会2004(同実行委員会、10/9 - 11)
 IUCN世界会議に向けて～日米両政府にIUCN勧告の履行を求める集い(ジュゴン保護キャンペーンセンター、10/11)
 2004国際湿地シンポジウムin敦賀(日本湿地ネットワーク、10/16 - 17)
 第25回東北自然保護のつどい(山形県自然保護団体協議会、10/16 - 17)
 西淀どんぐりフェスタ(西淀自然文化協会、10/23)

SAVE21東京湾まち育てワークショップ (SAVE21実行委員会、10/23)
 ビックリ! にっぽん大自然～日本の国立公園めぐり～ (佐世保市、11/3 - 1/10)
 せたがやトラストウィーク2004 (せたがやトラスト協会、11/9 - 14)
 公開フォーラム「『緑の循環』～豊かな森と活力ある地域づくりにむけて～」
 (「緑の循環」認証会議、11/16)
 三番瀬市民調査の会発表会 (三番瀬市民調査の会、11/28)
 三番瀬フェスタ2004「サフランシコ湾計画に学ぶ - 豊かな閉鎖性海域を次世代に」 (同実行委員会、1/23)
 IUCN勧告の履行を求める新署名スタートのつどい (ジュゴン保護キャンペーンセンター、1/26)
 シンポジウム～日本で唯一のジュゴン保護区を設置するために～ (ジュゴン保護基金委員会、1/29)
 シンポジウム「伝えたい! 豊かな吉野川河口干潟」 (吉野川ひがたネットワーク、1/30)
 環境教育関東ミーティング (同実行委員会・国立赤城青年の家、2/11 - 13)
 2005九州環境教育ミーティングin佐賀・黒髪 (同実行委員会、3/5 - 6)
 第4回シンポジウム「昔あばれ川 今・さまよえる酒匂川」 (酒匂川水系の環境を考える会、3/13)
 第23回日本環境会議・松山大会 (日本環境会議、3/26 - 28)

/ 計35件

< 別表5. > 海岸植物群落調査研修会

開催日	開催地	会場	共催団体
4/25	神奈川県・小磯海岸	大磯町生涯学習館	グリーントフ
5/15	香川県・長崎の鼻	屋島東公民館	かがわ自然観察会
5/16	広島県・こなきり浜	伝統産業会館	広島県自然観察指導員連絡会
5/30	静岡県・同笠海岸	体育センター	静岡県自然観察指導員連絡会西部支部
6/6	新潟県・潟町砂丘	柿崎町町民会館	新潟県自然観察指導員の
6/20	茨城県・国営ひたち海	砂丘ガーデングリーン工房	
7/18	三重県・白塚海	白塚市民センター	自然観察指導員三重連絡会 白塚の浜を愛する会
8/29	島根県・大社海岸	浜遊自然館	島根県自然観察指導員連絡協議会

9/4	鳥取・井出ヶ浜	青谷町中央公民館	自然観察指導員鳥取連絡会
-----	---------	----------	--------------

<別表6.> プロ・ナトゥーラ・ファンド平成16年度(第15期)助成先

テーマ/国内グループ名・海外申請者名	助成額(万円)
(1)国内研究助成	
絶滅危惧種ツシマヤマネコの生息地としての森林環境の評価 / ツシマヤマネコ研究グループ	100
西表島浦内川河口域の生物多様性と伝統的自然資源利用の総合調査(継続) / 西表島浦内川流域研究会	100
西表島溪流辺植物群落の成立要因の解明と保全に関する調査研究 / 西表島溪流植生調査団	70
稀少鳥類ナミエヤマガラ基礎生態研究:少ない生息数が引き起こす独特な生活史形質 / ナミエヤマガラ調査隊	90
屋久島におけるウミガメの個体数把握調査 / NPO法人屋久島うみがめ館	100
奄美大島固有種オットンガエルの保全生態学的研究 / 奄美両生類研究会	100
(2)国内活動助成	
市民調査による九折瀬洞に生息する生物の現況と川辺川ダム計画の影響調査活動 / 九折瀬洞窟調査グループ	90
県指定天然記念物「坂戸神社の森」に関する周辺住民の啓蒙のためのパンフレット作成 / 「坂戸神社の森」パンフレット刊行会	90
「こんなにすばらしかった、軽井沢の草原～みんなで作るレッドデータブック」(仮題)の出版と普及 / 軽井沢サクラソウ会議	50
近畿地方におけるタンポポ属の在来種・外来種・雑種の分布調査 / タンポポ調査・近畿2005実行委員会	80
泡瀬干潟における自然環境マップの作成 / 泡瀬干潟を守る連絡会	80
国内IBA(重要鳥類生息地)パンフレット作成 / 日本野鳥の会	80
2004国際湿地シンポジウムin敦賀 ラムサール登録・未来への贈りもの～その役割と展望 / 日本湿地ネットワーク	90
沖縄のジュゴン保護のために確保すべき生息環境についてのヒアリングおよび文献調査 / 北限のジュゴンを見守る会	90

矢倉干潟保全活動 / 西淀自然文化協会	60
特別天然記念物オオサンショウウオ生息地生物多様性調査 / 真庭遺産研究会	70
(3)国内長期事業助成	
北上山地中・北部に残存する中間温帯性自然林の分布と特性 / 北上山地森林生態系研究グループ	190
北方四島における生態系保全と一次産業の共生に関するモデル形成 / 特定非営利活動法人北の海の動物センター	340
栗駒国定公園（山形県内区域）公園計画の立案 / 神室山系の自然を守る会	50
(4)海外助成	
野生オラウータン生息地における住民参加の森林パトロール活動と動態調査 / Mr.Yan.S	130
「野生のアフリカゾウと地域住民の共存から野生動物と人間の未来を考える」サイト立案 / 中村千秋	130
モウコガゼルと家畜の相互関係に関する研究～ガゼルの保護についての過放牧の問題点 / Dr.Lkhagvasuren Badamjav	100
ブータンのLamperi広葉樹林の、放棄されたワサビ田における在来種の多様性保全 / Ms.Rebecca Pradhan	120
計23件	2,200

<別表7.> NACS-J自然観察指導員講習会

No.	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
344	5/28-30	兵庫	兵庫県立淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路景観園芸学校	62
345	6/18-20	北海道	道民の森	北海道自然保護協会	60
346	7/17-19	神奈川	富士ゼロックス塚原研修所	富士ゼロックス	63
347	7/23-25	大分	大分市霊山青年の家	大分県	58
348	7/30-8/1	京都	京都精華大学	京都精華大学	64

349	8/20-22	山形	山形県海浜青年の家	鳥海山の自然を守る会 山形県自然観察指導員連絡協議会	49
350	8/28-30	熊本	熊本県立豊野少年自然の家	自然観察指導員熊本県連絡会	59
351	9/3-5	三重	合歓の郷	自然観察指導員三重連絡会	61
352	9/18-20	島根	国立三瓶青年の家	島根県	68
353	9/24-26	佐賀	国民宿舎いろは島	佐賀県	28
360	10/1-3	群馬	高原千葉村	赤谷プロジェクト地域協議会	49
354	10/9-11	新潟	国立妙高少年自然の家	新潟県自然観察指導員の会	69
355	10/15-17	静岡	清水和田島少年自然の家	静岡県	62
356	10/22-24	京都	旅館白糸	京都府	60
357	10/29-31	千葉	国民宿舎清和	千葉県	60
358	11/12-14	栃木	南那須少年自然の家	栃木県自然観察指導員連絡協議会	54
359	11/26-28	東京	法政大学多摩キャンパス		62

<別表8.> 自然観察指導員フォローアップ研修会

No.	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
125	9/4-5	植生管理	春日井市少年自然の家	愛知県	35
	9/25-26	自然観察会でのリスクマネジメント	岩木青少年スポーツセンター	青森県自然観察指導員連絡会	中止
126	10/2-3	ネイチャー・フィーリング	加須げんきプラザ	埼玉県	40

<別表9.> リアルネイチャーシリーズ

9-1 企業人向けリアルネイチャー・セミナー ~ CSRとして、また本業を支えるため

の自然保護

開催日	テーマ
8/23	日本の自然を良くしていくために企業活動として行う自然保護活動の、認知度や社員の意識を高めるには～メディアの視点、NGOの視点も合わせて
9/10	『持続可能性報告書』で記述が必須となった『生物多様性』を徹底解説～社内プレゼンテーションで使えるように
11/18	日本の自然の豊かさを取り戻すために社有林・社有地を活用するときの、あの手この手
1/28	『消耗型』の本業を『持続可能型』にシフトチェンジさせる方法～土地開発型企業の生物多様性保全に向けた取り組み、メディア・NGOの視点

於 / 東京・セイコーエプソン会議室 協賛 / 日経BP環境経営フォーラム、セイコーエプソン

協力 / キリンビバレッジ

9-2 学生向けリアルネイチャー・セミナー～自然保護の仕事は、こんなところにもある

開催日	テーマ
9/3	自然を守る組織で働く
9/5	自然の中での経験を活かす
2/18	若者を育てる、政策を作る
2/19	自然を伝える、自然を調べる
3/27	若者を育てる、政策を作る（追加開催）

於 / 東京・モンベルクラブ渋谷店 協賛 / 日産自動車、モンベル

協力 / キリンビバレッジ

9-3 AKAYAリアルネイチャー・キャンプ

開催日	テーマ
5/22-23	新緑の森
7/17-18	高山の夏
9/19-20	番外編・森の科学探検隊（協賛 / 東芝）
10/30-31	秋の山歩き
3/5-6	雪の中の「生き物の穴」～まずはネズミの目線から

協賛 / 宝酒造、損保ジャパン環境財団

協力 / モンベル

Copyright(c)2004 THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN,All rights reserved.